

柳津小学校だより

鳴神山



2020, 5, 29 No. 10

柳津町立柳津小学校

発行者 校長 星 潔



「学校の新しい生活様式」

5月25日（月）より学校再開となりました。この1週間、全学年ともに、久しぶりの午後までの授業となり、大変疲れたのではないかと思います。週末には休養を取り、また来週からの学校生活に備えてほしいと思います。

さて、皆様ご存じのとおり、新型コロナウイルス感染症専門家会議からの提言を踏まえ、新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」の実践例が発表されています。学校においても文部科学省より「学校の新しい生活様式」が提示され、この様式に沿って教育活動を実施することとなります。この生活様式は、政府の専門家会議が示した都道府県ごとの「特定警戒」、「感染拡大注意」、「感染観察」の区分を参考に、学校がある地域ごとの感染状況を、1～3のレベルに分けて示されています。柳津町は現在「レベル1」に分類されます。「レベル1」では右の表のとおり、身体的距離の確保は1mを目安にすること、感染リスクの高い教育活動は十分な感染対策をした上で実施すること等が提示されています。

「新しい生活様式」を踏まえた学校の行動基準

地域の感染レベル	身体的距離の確保	感染リスクの高い教科活動	部活動（自由意思の活動）
レベル3	できるだけ2m程度（最低1m）	行わない	個人や少人数でのリスクの低い活動で短時間での活動に限定
レベル2	できるだけ2m程度（最低1m）	リスクの低い活動から徐々に実施	リスクの低い活動から徐々に実施し、教師等が活動状況の確認を徹底
レベル1	1mを目安に学級内で最大限の間隔を取ること	十分な感染対策を行った上で実施	十分な感染対策を行った上で実施

本校でも、教室間の間隔を広く取り、消毒を毎日実施し、マスクを着用し、3つの密をできるだけ回避するなどの感染対策をしっかりと行いながら教育活動を実施して参ります。保護者の皆様には今まで通りマスクやハンカチ、ティッシュの準備と毎朝の検温などのご協力をよろしくお願いいたします。

1年生を迎える会

5月27日（水）に時間や内容を簡素化しながらではありましたが「1年生を迎える会」を実施しました。1年生の皆さんには大変遅くなり申し訳なかったのですが、6年生の運営と2年生からのプレゼントと全校生からの「ようこそ柳津小学校へ」の熱い気持ちで、大変素晴らしい会になりました。1年生の皆さんのうれしそうな表情がそれを物語っていました。



<1年生入場>

<お迎えの言葉>



< 進行をする6年生 >



< 2年生からﾌﾟﾚｾﾝﾄ贈呈 >



< 1年生退場 >

全校朝の会（校長の話）より

今年は新型コロナウイルスの問題があり、学校生活もみなさんの命を第一に考えて様々なことを行うようになります。いつもの年とちがって、いろいろな行事などができなかったり、中身を変えたりしてやることもあります。校長先生も毎朝みなさんとハイタッチをしながら、元気にあいさつをするのが楽しみだったのですが、今年はハイタッチをしていないのもコロナウイルスのことを考えてのことです。給食だって音楽だって今まで通りにやりたいと思うのですが、みなさんの命とみなさんの周りの大切な人の命を第一に考えて、今までとは違うやり方で行っています。なんといっても「命」が1番大切なのです。そのことをみなさんわかってください。だからこそ、自分自身を守るために、周りの人を守るために、先生に言われなくても誰に言われなくても「うたしてますか」を自分で行います。自分で自分の命を守る「本物の力」を確実に身に付け、自分自身の大切な身体を自分で守ってください。

さて、みなさんはこの人を知っていますか？水泳で日本記録をたくさん出して東京オリンピック出場まちがいなしでメダルも狙えるといわれていた水泳の池江璃花子選手です。しかし池江選手は去年の2月に白血病という病気になって、約10か月も入院をしました。それでも治療をがんばり、無事に退院をして、406日ぶりにプールでの練習を開始しました。2回目にプールに入った際には、早くも25メートルのタイムを計ってほしいとお願いしたそうです。

「言葉で表せない楽しさっていうか、今までには感じたことのない気持ち。忘れません。」と喜んでいました。しかし、新型コロナウイルスの流行により、再びプールでの練習ができなくなってしまった池江選手。「正直、病院から出て、まさか日常生活でこういうふうにかから出られなくなって、練習ができなくなるとは思っていなかったの、ちょっと残念です」と話をしましたが、それでも「自分が復帰したっていうことをまずは病気の人達に伝えて、元気づけて」と力強く話しました。そして「病気の人達、普通に生活する人たち、スポーツをやっている人たち、全員の気持ちが分かるようになったから、結果よりも『どん底まで行った人間がここまで上がってきたんだ』っていう成長をちょっとずつでもいいから見せていければいいんじゃないかなと思います」と力強く話をしました。そして「できるところまでやりたいし、限界までチャレンジしたい」とも話をしました。

さてチーム柳小2020のみなさん。今年はいろいろできないことが多いからこそ、できるチャンスは逃さず、何にでも逃げないでみなさんにもチャレンジしてほしいです。やるかやらないかだったらやる方を選んでほしいです。失敗してもいいからチャレンジしてほしいです。そして周りの人もそのチャレンジして失敗した人を笑ったりせず、がんばった姿をみとめてほしいです。池江選手が話したとおりに、結果よりも成長をちょっとずつでもいいから見せてほしいです。それでいいんです。チーム柳小2020の皆さん。今年は「チャレンジ」の年です。特に柳小の顔である6年生が、全校生のみんなを引っ張って、ピンチをチャンスに変えて「チャレンジ」という新しい伝統をこの柳津小学校につくっていつてくれることを校長先生は楽しみにしています。これで校長先生のお話を終わります。